

人間としてみな同じ

普通に生きる権利を持っている

なぜインクルーシブ教育が必要か

知的障害を持つ息子とのあゆみをとおして

野口富美子

# 自己紹介をかねて

- 設計事務所の所長
- 神奈川県手をつなぐ育成会 理事
- 社会福祉法人 おおいそ福祉会 理事長
  
- 姉二人と弟の三人の子供 末っ子が知的障害と自閉症を持つ
- 息子とのあゆみをたどります。

- 姉二人が保育園で1才から障害のあるおともだちたちとなかよしに。
- 引越してから弟が生まれる。
- 3才児検診の時ことばがなかったので1年早めに3年保育の幼稚園に入園。
- 地元の小学校入学前に初めて知的障害と自閉症と診断される。
  - 姉たちが自然に受け止め、子供に教えられ、息子とともに成長していこうと決意。
- 3年まで普通級で、4年からは教科によって支援級に通級。
- 中学も基本は同じ
  - 12年間地域の友達とともに過ごすことができたことが彼の財産  
今でも地元が大好き。
- 小中時代は療育にも通い、お泊り体験などもした。

- 地域の障害児の親の先輩たちと家族ぐるみでレクリエーションや施設見学などをした。  
→大人になってからの彼の居場所が厳しいことを知る。
- 親や作業所の方や地域の人たちとグループ外出をする「ガイドヘルパーの会」を立ち上げ、歩きやバスや電車でたくさんの外出をした。地域の子供たちもヘルパーに。制度化された後、移動支援事業に移行。
- グループホームなどは自分たちが動かなければ実現しないことを知り、そのために、障害者の人権支援活動として育成会の活動を始める。
- 息子とともに、育成会の本人活動を含め、様々な活動に参加した。
- 息子が通所していた、育成会が設立し運営していた地域作業所が、寄付者もあり法人化することになり、設立理事となり、その後理事として継続し、約4年前から理事長を務めている。
- B型事業所と生活介護などを運営している現場に関わるようになり、障害者の方とのうれしいふれあいとともに、小規模施設の地域での必要性和、また運営の困難さも実感している。

# 津久井やまゆり事件後の集会で

- 障害当事者の方たちの怒りと恐れが発言が強く心に残りました。
- 育成会の先輩の、子供の時から共に触れ合わなければ差別はなくなれないとの発言に共感し、息子との経験を発信しなければと思うようになりました。わたし自身も息子を育てる前は、知的障害の方のことはよくわかりませんでした。恥ずかしいです。
- 息子も色々なトラブルがありましたが、相手に説明し、悪いことは悪いと本人に教えました。それで理解をしてくださる方がふえたと思います。
- なぜ虐待をするのか、現場の人だけを責めても変わらないと思います。自分が愛されて、みな同じ人間だと思える経験をしてこなかったかもしれないのですから。

# インクルーシブ教育について

- 先日の国連の障害者権利条約委員会対日審査の勧告にもインクルーシブ教育の実施についての項目がありました。
- とともに生きる社会を実現するためには、どんな子供にもともに教育を受けられる権利があると思います。障害のない子供にとってもです。多様性のない社会で苦しんでいるのは子供たちなのですから。
- 障害に限らず、今の社会は様々な分断が進んでいることがとても不安です。とともに生きるということとは相いれないことだと思います。
- 実現までは、様々な困難があると思いますが、まず将来展望に向かって、合理的配慮を重ねていっていただくことを願います。